



日永貴章 議員

財源とサービスのバランスは

質問

国の借金は、財務省が6月に900兆円を超え、国民一人当たり約70万円の借金となると発表した。

市は合併当初より、「普通交付税の合併算定換え」による増額を特例的に受けているが、これも平成27年度までで終了し、平成33年度には、平成27年度より15億円程度の減収が現状で分かっている。

国の現状、今後の状況いかによっては更なる減収も考えられる。現状の予算規模をいつまで続けることができるのか。

企画部長

現在も歳入不足を起債と基金の繰り入れで補っている。基金が底をつけば、現在の予算規模は維持できなくなると思われる。

質問

今後、現在の住民サービスを維持し続けることができるのか。

企画部長

合併当時は、サービスは高く、負担は低くを基本に進めてきた。

しかし、今後は歳出予算を

削減していかなければ財源の確保は難しくなる。

質問

財源確保のための企業誘致に対して、積極的にアピールしていく必要があると思う

副市長

内外に分かるような組織・部門の関係を総合的に考えていきたい。

が、今後の対応は。

農業・農地・排水機の重要性は

質問

愛西市は市内全域が海拔0m地帯で、面積の約50%が農地である。

食の安全・安心の観点から農業の重要性は十分認識されていると思う。

しかし、農業に対してはまだ多くの課題がある。

それらの課題解決は、国においても十分な対策は行われていないように思われる。

ぜひ、市として農業従事者・現場に携わる方々の意見を聞き、政策・制度に反映させてほしいが。

経済建設部長

市内全域が海拔0m地帯であり、昔から排水対策に苦慮してきた。

農地は自然ダムの機能も持っている。排水対策の解決のため、農家に協力してもらい、排水路・排水機の整備を積極的に行ってきた。

現在、市内には33の排水機場があり、その維持管理などを農業団体が行っている。

農地、排水機・排水路のある状況で、安全・安心が守られている。

質問

農業・農地の重要性・役割についてどのように考えているのか。

